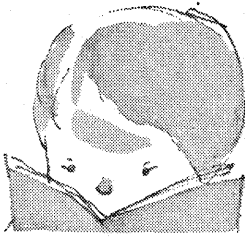


しているなかで、家庭の中にはお父さんがあり、お母さんがあるということから、役割が出てくるんだと、考えていたんです。でも、そうじゃなくて、自分の一つの遊びの位置づけと
言いますか、自分の足場を固めるために、その相手を自分とはっきり区別して位置づけてい
くところに関連して役割が理解されていくということがわかって来ました。

したがって役割あそびというとき単に社会事象の認識としての役割としての役割理解のみ
でなく、こうした子どもたちの人間関係が根強くその背景にあること、しかも秩序づくりを
学んでいくことがこの経験最中にあることをあらためて理解しなければなりません。私はこ
れは子どもが自然に考えてつくっていく一つの秩序づくりだと思えます。さっきのブラン
コの例では、一つのルールという秩序づくりがありましたけれど、今度は役割をお互いがう
けもつということによって秩序づくりを学んでいくこと、つまり子どもたちが自他の区別を
はつきりさせながら位置づいて相互に自己主張をやり、自己実現をしながら、他人の自己実
現をも認めようとしていっているわけです。それは本当にすばらしいことだと思えます。こ
れは、大人が子どもの時に経験したことかもしれないかもしれませんが大人にはとつても真似できな
いと幼児たちは堂々とやっけてのけているわけです。こんな事例があちこちにたくさんみられ
ます。



(大津市教育研究所)

— つづき —

幼児の教育 第七十三巻 第三号

三月号 ◎ 定価一七〇円

昭和四十九年二月二十五日印刷
昭和四十九年三月 一 日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

111 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売
所フレーベル館にお願いいたします